

札幌新まちづくり計画市民会議  
第5回全体会議概要録

日 時 平成16年4月6日(火) 18:00~19:15

場 所 札幌すみれホテル 3階 ヴィオレ

出席者 内田和男 座長 ・ 杉岡直人 副座長 ・ 高田悦子 副座長  
阿部一司 委員 ・ 荒 紀男 委員 ・ 伊藤淑子 委員 ・ 飯塚優子 委員  
岩田美香 委員 ・ 臼井 博 委員 ・ 大坂 紫 委員 ・ 太田幸雄 委員  
大沼義彦 委員 ・ 黒田澄雄 委員 ・ 工藤仁美 委員 ・ 柴川明子 委員  
杉森洋子 委員 ・ 田村丈生 委員 ・ 燕 信子 委員 ・ 中井和子 委員  
中島 洋 委員 ・ 林 雅之 委員 ・ 平本健太 委員  
(欠席：小林英嗣 委員)

次 第

- 1 開 会
- 2 議 事  
(1) 提言書案について  
(2) 意見交換  
(3) その他
- 3 閉 会

議事の概要

始めに、内田座長より提言書案ととりまとめの考え方について説明があり、意見交換がなされた。

引き続き、各分科会の会長、副会長による分科会の総括がなされ、その後に、提言書案が了承された。

その後、各委員から今回の市民会議についての意見、感想などが発表された。

最後に、今後の新まちづくり計画策定のスケジュールが確認され、閉会となった。

## 提言書案について

### 内田座長による説明

- ・ 本配布した資料1「提言書(案)」は、資料2「重点施策・総論骨子の修正案」を元に文章化したものである。資料2は前回全体会議で配布した「骨子(案)」に対して各委員から意見を受け作成した。
- ・ 今回の市民会議には大変厳しい時間的制約が課せられていた。その中で、市民会議の役割は、既存の市の計画で今後3年間に重点的に行うべきことは何かを考えることであると理解したが、各委員は基本に立ち返った根本的な議論を活発に行った。そこで、提言書本編は各分科会の意見を最大公約数的にまとめる視点で作成する一方、委員の個別意見については全て資料編に載せる形を取った。
- ・ 前回、議論になった共生・地域づくり分科会の取りまとめだが、2つのまとめにはアプローチの差が感じられたものの大きな違いを感じることはできなかった。
- ・ 今回の会議での各委員の発言の特徴は、シングルイシューについての詳細な意見が多く展開されたことである。その経験を議論で戦わせるという点は不十分であった。実はこのことこそ、今、行政が抱えている重大な課題なのである。
- ・ ただ、それぞれのシングルイシューは重要な課題であることは違いない。

### 提言書案等についての意見

#### 中島委員

- ・ 提言書に書かれている施策で現在進んでいるものについては、それが分かるようにかっこでくるなどしてほしい。
- ・ ずっと提案していることだが、まちづくりセンターは、官設民営方式としてNPOに管理を任せるところまで踏み込んだ変更がされれば変わると思う。町内会がNPO申請をし、そのNPOが管理運営する方向になればいい。

### 各分科会の議論の総括

#### 共生・地域づくり分科会(杉岡委員)

- ・ 共生・地域づくりの基本の考え方は、すでに具体的に取り組まれている市民活動をどう伸ばすかということである。
- ・ 今まで断片的につながっていた人、施設、団体を地域の資源と位置付け、お互いに問題を協議する場をまず明確にすることが共生・地域づくりの一つの柱になると思う。
- ・ まちづくりセンターは、大きく言えば地方分権に関わってくる。札幌市が具体的なまちづくり活動をしていこうとすれば、住民が自分の住むまちを見られるまちづくりセンターのエリアでということになる。そこには行政のサービス拠点もあり、福祉のまち推進センターのエリアとも重なっているの、地域の問題を自分たちで解決する場を拠点化するという面で、中島委員の提案が具体化する可能性は非常に大きいと思う。

#### 環境・都市機能分科会(中井委員)

- ・ これからの都市空間は、自然に配慮し、環境への影響が少なく、なおかつ誰もが困難

なく使え、活動できる場所でないといけない。それが市の景観・環境の質を高めていき、観光都市としての重要な資源にもなっていくという流れがうまく機能すると、札幌市は良くなっていくと思う。

- ・それが実現されるためには、公共的な視点で自分のまちを見られる人材を育てることが大事である。
- ・行政にはインフラ整備という役割があるが、市民にも文化としてのまちづくりをうまく機能させるという役割がある。

#### 文化・人づくり分科会（白井委員）

- ・文化・人づくり分科会のまとめを貫く思想の特徴は以下の3点である。
  1. 人と自然に関わる価値観、哲学の重視。アイヌ民族の哲学、人権という考え方を大事にしないといけない。
  2. 多様性が大切である。ポピュラーな文化がいい文化と見られがちだが、マイノリティーの文化にも学ぶべきこと、心を豊かにする要素がある。また、プロ、トップに触れる機会を増やすとともに、アマの育成とその指導者づくりも大事な課題である。
  3. 子育て、教育は、家庭だけ、学校だけは不可能である。地域、学校、保護者、企業などさまざまな主体の連携が必要。

#### 各委員の感想、意見など

##### 工藤委員

- ・例えば、障がい者の雇用の場をどうつくるかまで提案できなかったように、他の分科会と連携した議論、具体的な提案ができなかった点を反省している。
- Q 連絡所のまちづくりセンターへの改編については新聞などでも報道されているが、動きがあるのであれば聞きたい。
- A 今、連絡所は連合町内会単位ごとにあり、かなり連合町内会との関わりが多く、本来の地域のまちづくりとはちょっと違う機能を果たしているという実態がある。そこで、まず名称を変え、地域のまちづくりの核になるように改変していきたいと考えている。（事務局）

##### 高田副座長

- ・提言書（案）の総論「その他」の「ストーリー性を充実すべき」に共感している。いろいろな改革が流れている中で、合言葉、旗印になるようなものがほしい。
- ・障がい者、母子家庭の問題として、雇用につながらないと生活保護に傾斜せざるを得ないということがあるので「生きる力＝働く力」だと思う。

##### 柴川委員

- ・まちづくりセンターについては、本当にふれあいの場になることを期待している。
- ・障がい児が安心して遊べる遊び場がない、不特定多数が使えるふれあいの場の確保が難しいという現状がある。こういう場をつくるには、もう個人の力では無理であり、どうしても行政と市民が協働で考えることが必要であると思う。
- ・今回の市民会議の中で「協働」という言葉と「たまり場」ということがでてきていたが、それらが大切だと改めて思った。

#### 燕委員

- ・ まとめの仕方について分科会の中でもっと議論ができればよかった。今後、こういう市民会議が行われるとしたら、委員が自分たちでまとめられる日程にする方がいい。

#### 中井委員

- ・ 今後は、4つの分科会のテーマを横断的につなぐような、別の切り口で見ていくことが大事だと思う。

#### 内田座長

- ・ 「横断的」という話があったが、最初に言った「シングルイシュー」というのは、それがなかったということである。この会議でも、NPOでも、自らの課題については深く関わっていくが、そこに連携が生まれにくいということがある。興味を持ってないからだと考えるが、当事者にいかに興味を広げてもらうかというのは、行政だけではなくて、市民レベルの課題でもある。

#### 中島委員

- ・ ずっと「場づくり」ということにこだわってきた。小さな場がたくさんあればいいと考えるが、市民主体、市民参加の場を提供するときに、古い建物をどのように使うか、再生アイデアコンテストみたいなことができないだろうか。言っておしまいではなくて、アイデアを出した人が中心になって再生に取り組むようなコンテストである。

#### 田村委員

- ・ 提言書は座長の苦勞が感じ取れたが、具体的な文言になったほうが良かったという感想を持った。市には提言書の意見をきちんとくみ取ってほしい。

#### 大沼委員

- ・ まちづくりセンターは、物理的な公共空間としてだけではなく、札幌市の社会的な公共空間として、多分、ハブの機能を担っていくのではないか。
- ・ 文化・人づくり分科会では「小さい表現」が1つのキーワードだった。そういった自己表現の場も大切だが、他者との違いを承認し合う場も必要で、そこから共通理解が生まれ、文化的な多様性も理解できるのではないか。
- ・ まちづくりセンターが重要な役割を担うとすれば、市職員の技量、専門性が非常に要求される。それに応えられる人材に関しても、きちんと取り組まなければいけない。

#### 高田委員

Q 町内会の定義付けはどうなっているのか。

A 町内会は任意団体なので、辞書的な意味での定義付けはないと考える。(事務局)